

私は今週の火曜日まで約3週間ほど、関東へ講演旅行に行って、色んな教会・集会を訪問しました。中に30代前半の若者?…青年?…微妙な方が来られて「YouTube全部見ましたが、一番楽しみにしているのは『ざっくり黙示録シリーズ』です。頑張ってください。だけど、このシリーズ、不定期ですよ。私の計算では全部終わるのに、あと3年かかります。だから『ゆっくり黙示録』。私はこれを最後まで聞き届けたいと思っています。でも、あと3年、聞き届けられるか分かりません。」「なんか、病気なん?」「イヤ、高原さんが先に死ぬかも」とか言って、僕の長生きのために祈ってくれてるそうです。もうちょっとでクリスチャンだと本人が言われていたので、エールを届けるつもりで、彼を意識して、今日もお話したいと思っています。

彼が興味深い事を言ってくれました。「高原さん、『ネバーエンディングストーリー』という本、ご存知ですか?」ミハエル・エンデが書いたのですが、僕は読んだ事ありません。でも、これを基にした映画は見た事があります。「映画と本、結末が違うんですよ。本の方が絶対いいですから!」と力説してくれたのを、かいつまんで言います。

ある少年が、ものすごく古く・いかめしく・分厚く・近寄り難く・威圧感のある本を、「こんな物、誰が読むんだろう」と開いてみると、すごく面白くて、グイグイ引き込まれて、止める事ができない。物語の中に入り込んでいった時、「待てよ。このストーリー、どっかで読んだ事ある。」

ハタと気がついたのは本じゃない。自分の人生。彼がその年齢に到達するまでの間に経験した出来事が、その本の中に書いてある。「大昔に書かれた小説と思っていたら、僕の事じゃないか。」いよいよ離れられなくなって読んでいくと、キャラクターが姿を現して「さあ、私の名を呼びなさい。呼びかけてごらん」とチャレンジする。怖くなった。「この本、生きてる。昔の作り話じゃなくて、今生きて働きかけている本じゃないか。」怖くなった彼は、最後に「この本に書いてある事は本当だ。」というのが『ネバーエンディングストーリー』

ところで、なぜ少年がそんな分厚い本を読むようになったのか? その本のタイトルは『読んではいけない本』。人間はあまのじゃくです。「読んだらあかん」と書いてあったら、「いや、そんなに言うんやったら、ちょっと読みたいな。」だから「聖書読んで下さい」と言うのは、もうやめようかなと。「集会来て下さい」も。「次の木曜日、ざっくり黙示録ありますから、是非来ないで下さい。」「えーっ!」みたいなの。

彼が言ってくれたのは、「聖書を、特に黙示録を読んでいると、これが生きた本で、黙示録の主人公であるイエス・キリストが『さあ、救い主としてのわたしの名を呼びなさい』と自分に訴えかけて下さっているみたい。だけど、黙示録は難解過ぎて、素人が読んでも分からへんから、時間の無駄やしやめとく。やめとき・やめときみたいなの、まるで、読んでではない本というイメージがあった。そんな悪魔のささやきを退けて、これを聞いて学んでいきたいと思っているので、高原さんは是非長生きして下さい。」

黙示録に限りませんが、聖書の主人公はイエス・キリストで、本当の事が書いてあります。昔書かれた本ですが、今の事も、これからの世界の事も書いてあります。預言書。神でなければ書く事ができない預言書。これが書かれた目的は、神が遣わして下さった創造主イエス・キリストに対する信仰を、私たちに与えるためです。

ざっくりシリーズはクリスチャンではなく、ノンクリスチャンが対象なのでざっくり。という事で、一緒に考えていきたいと思います。

今日は聖書をあちこち開くのでパワーポイントを使おうか、いや、あかん。私は紙で行くと。抵抗。時代に逆行する鶴田浩二のようなところがありまして、許して下さい。

今日は黙示録 2 章ですが、1 章を復習したいんです。というのは、前回の話、もう忘れてはるでしょ？
「えっ、1 章にそんな話あったの?!」

黙示録 1:1 イエス・キリストの黙示。神はすぐに起こるべきことをしもべたちに示すため、これをキリストに与えられた。

黙示録に書いてあるのは、**すぐに起こるべきこと**。すなわち、まだ起こっていないけど、**起こるべき事・必ず起こる事**。まだ実現していないけど、必ず実現しなければならない、実現する事。

すぐには、これが起こり出したら、あっという間に、短期間で実現するという意味。

特定の未来・時代に向かってどんどん進んでいるのですが、それが前もって書いてある、未来に関する預言の本が黙示録です。

誰に対して書かれたのか？ **黙示録 1:4 ヨハネから、アジアにある七つの教会へ。**

この**アジア**はローマ帝国アジア州なので、現トルコ。アナトリア半島にある**7つの教会**。

その教会名のリストが**黙示録 1:11 あなたが見たことを巻物に記して、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモン、テアティラ、サルディス、フィラデルフィア、ラオディキアに送りなさい。**

これらの教会に向かって、黙示録が書かれました。

黙示録の構造的な事が**黙示録 1:19 それゆえ、あなたが見たこと、今あること、この後起ころうとしていることを書き記せ。**

見たことは過去形、今あることは現在進行形、この後起ころうとしていることは未来について起こる事。黙示録は過去・現在・未来という時系列で、4 回だけ例外で挿入箇所が出て来るのですが、過去から未来に向かって書かれています。だから難しくありません。後の方に書いてあるのが未来の事です。

①**あなたが見たこと**は 1:19 の時点でヨハネが見た事・既に過去になった事・ヨハネがパトモス島で見たイエス・キリストの栄光の姿。この時点では、もう見た事になっています。

つまり、**あなたが見たこと**は**黙示録 1 章**の事です。

②**今あること**は 1:19 の時点で、やがてヨハネが黙示録を書き終えた時に、それを送る**7つの教会**が存在する時代・教会がこの地上にある時代・教会時代の事。これは**黙示録 2 章と 3 章**に出て来ます。

③**この後起ころうとしていること**は未来の事で**黙示録 4 章から 22 章**、最後まで。

だから**1 章**は過去・**2-3 章**は現在・**4-22 章**は将来起こる事の 3 つです。

今日見るのは、**今あること**の教会時代です。**7つの教会に書き送れ (1:11)**という言葉には、3 つの意味があると思います。**7つの教会**とは、この時点で実在する、先程リストがあった**エペソからラオディキアの 7つの教会**。これらの教会に書き送られました。

「2000 年前の教会だから、21 世紀の今の教会・私たちとは直接関係ないんだ。」そうではありません。

第1の意味：この時点で実在している**7つの教会**。

第2の意味：**7つ**という言葉。新約聖書全体で7は88回出て来ますが、その内56回が**黙示録**。7つの金の燭台・7つの星・7つの封印・7つのラッパ・7つの鉢・7つの雷・7つの山・7人の王たち・7つの冠。7・7・7…頻回。

聖書全体で7の使われ方を見ると、2つの事が考えられます。

◎完全；例えば**7つの御霊**（神の霊）とは、神の霊が7つあるんじゃない。1つです。完全な霊という事。だから7は、それ自体で完結している完全なもの・完全性・完全数とされています。

◎完成・全体；例えば1週間という固まりは、1日が7個集まって1週間。1週間はなぜ7？

ものすごく中途半端と思いませんか？ 上旬・中旬・下旬の“旬”は十（10）でしょ。

世界的に1週間は7。なんで7毎に区切って行くのか？ 起源は聖書です。神は6日働いて7日目休んだ。1週間。これが世界中に広がっているんです。1日が7個集まって、1週間という全体を構成している。

イスラエルの1年は7つの祭りで構成されていて、“過越し（すぎこし）の祭り”で始まって“仮庵（かりいお）の祭り”で終わる。7つの祭りでユダヤの1年の暦が完成します。

7つの祭りで1年という固まりが出来上がる。7は全体であるという事です。

それを考えると、**7つの教会**の7は、当時実在した教会であると同時に教会全体をも意味する。

どういう事かという、今世界中にどれくらいの教会があるのか知りませんが、それら神の教会とされているものは、この**7つの教会**の特徴のどれかに当てはまるという事。

7つの教会はそれぞれ独特のタイプがあって、それがここで紹介され、今の世界中の教会は大きな傾向として、その7種類のタイプのどれかによく似ている。完全にピッタリという事はないと思いますが。それで、「2000年前の教会に宛てて書かれているから、今の私たちには関係ない」とは言えないのです。

黙示録 2:11 耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。

諸教会。エペソの教会に語りながら、それ以外の多くの教会に聞かせたい。なので、代表のエペソに語っている。つまり、今の教会にも絶対に関係があるので、自分への言葉として聞く事ができるのです。

第3の意味：預言的な意味がある。世界初の教会ができたのはAD30年。今2019年。教会が誕生してから約2000年経ちました。2000年間の教会史のどの時代にも、この**7つの教会**のタイプがある事を踏まえて、その時代の教会の特徴が7段階にわたって展開しています。

時代毎に代表的な大まかな特徴があって、ある時代の教会は、この7つの代表的教会の特徴に非常に合致する。つまり、ヨハネが黙示録を書いたAD95・96年から今日に至るまでの、各時代の教会の大きな特徴を預言していると言えるのです。

その理由は2つ。

①**黙示録**は預言の本。未来の事について語っている本。なので、ヨハネが生きていた**7つの教会**の時代以降の未来の教会について、教会の変遷の預言も語っている。

②**7**という言葉の黙示録における構造。**7つの教会**の後に、恐らく携挙からしばらくの間があると思いますが、反キリストと呼ばれる人物がイスラエルと7年契約を結ぶ事によって、7年間続く患難時代という特別な時代が始まります。7年の契約時代が患難時代。

それは、キリストが地上に下りて来て、反キリストを始末するまで続きます。ユダヤ暦できっかり7年。患難時代は前半と後半に分けられて、前半は前半（7つの封印時代）と後半（7つのラッパ時代）に分けられると私は思っています。

本格的に苦しいのが、患難時代の後半全体（7つの鉢時代）です。

7つの封印・7つのラッパ・7つの鉢。これらは期間を表していて、その前に7つの教会が並べられているのを考えると、構造的に見て、7つの教会の時代が預言的に紹介されていると考えるのは、何も難しくなく不自然ではないと思います。

時間軸で見ましょう。キリストがベツレヘムの家畜小屋で生まれて下さいました。キリストの降誕。やがて十字架にかかって死に、墓に葬られ、3日目に復活し、それから40日間弟子たちに現れた後、天に帰って行かれます。この十字架から数えて50日目に聖霊（神の霊）が、イエスを信じている弟子たちの上に下りました。これが教会誕生の瞬間、AD30年です。

そこから教会時代がずっと続くのですが、その時代はある決定的事件によって終わります。それは“携挙”（携え上げる）。キリストがまた来て、その時点で生きているクリスチャンと、その時まで死んだクリスチャンが（その人たちは生き返らされて）、天に引き上げられる。なので、AD30年から携挙までが教会時代。

教会時代は7つの時代に分けられます。その最初がエペソの時代。イエスを信じた人たちが始めた初代教会からAD100年くらい・最後の使徒ヨハネが生き残っていた時代まで、と見ていいのではないかと思います。

今から、エペソの初代教会の特徴から見ておきましょう。これは、まだクリスチャンでない方向けなので、応用という事で、イエス様の事をお話したいと思います。

黙示録 2:1a エペソにある教会の御使いに書き送れ。

エペソにある教会をエペソ教会と言います。ここは東住吉にある集会なので東住吉キリスト集会。地名です。エペソ。東住吉…、ちょっと見劣りしてる感じ。エペソにある神の教会。

御使いは天使だと言う人もいます。それもおかしくないと思いますが、私自身はそれよりも、エペソ教会の実態というか、スピリッツと捉えています。なぜかという説明は既にしました。

例えば、**黙示録 2:5 どこから落ちたのか思い起こし、悔い改めなさい。**

御使いが悔い改めるってヘンな事ですよ。御使いは、悔い改めないといけない事をした時、赦しや救いの余地はないんです。だから、これは御使いに向かって言っているというよりも、エペソ教会の状態・教会に向かって語っていると考えていいと思います。

黙示録 2:2a わたし（イエス・キリスト）は、あなたの行い、あなたの労苦と忍耐を知っている。

神・キリストは、一つひとつの教会の実態を熟知しておられる。

教会とは建物ではありません。教会の中身は、それを構成しているクリスチャンたちです。

キリストは、その教会の実際の姿を熟知しておられ、2つの称賛と1つの叱責を与えています。

でも、ざっくりなので、1つの称賛に絞ります。ほめる事と叱る事があります。

先に叱る事からではなくて、ほめる事から入るんです。私たちもそうでありますよね。「こらーっ!」じゃなくて「高原さんもできるだけのことやってるよね。けどね、」と、ちょっと心開いてほしいなと思うのですが。

1つの称賛を見ましょう。労苦と忍耐。この2つは称賛に値する事である。

黙示録 2:2b あなたが悪者たちに我慢がならず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちを試して、彼らを偽り者だと見抜いたことも知っている。

初代教会は30年から100年くらいまでと言いましたが、ヨハネがこの手紙を書いているのは95年か96年です。エペソ教会ができて35年-40年くらい。この時は、まだ新約聖書は完成していません。

新約聖書がない時に、イエスの教えを教会がどのようにして知る事ができたのか?

使徒と言われる人たちや聖書の教師たちが各教会を訪問して、「イエス様はこのように仰ったんですよ」と説明してくれたのです。

ところが、その中に偽者が入っていて、彼らが教会の中を引っ掻き回すという事がありました。その時、エペソ教会・初代教会は「これ、おかしい!」と見抜いて撃退したのです。

1世紀、『ディダケー』というギリシャ語の使徒たちの教えが回覧されていました。内容は『偽教師の見破り方』。「あなた方の教会に教師を名乗る人が来て『神はこう言われる。ご馳走を作りなさい』と言って、それを食べたなら、彼は偽教師である。彼が『主は言われる。贈り物を用意しなさい』と言って、それを全部持って行ったら、彼は偽教師である。彼が『神はこう言われる。献金を準備しておきなさい』と言って、それを全部持って行ったら、彼は偽教師である。」

「そんな、言われなくても分かるやろ」と思うでしょ。ちゃいますねん、これが。偽教師どころか偽使徒どころか、今の日本にも偽キリスト（自分で偽とは言いませんよ）、キリストを名乗って、教会の中を引っ掻き回す教えがいっぱいあります。特に有名なのは3大異端と言って、エホバの証人、統一教会、モルモン教。いつか3大異端を解剖して、皆様にお届けしたいと思っていますけど。

特に〈音声消去〉がありました。今ないんです。統一教会は名前を変えて〈音声消去〉。なぜ名前を変えたかという〈音声消去〉何百億という莫大な遺産があるけど、遺産相続で、未亡人と息子たちの間に壮絶な争いが生じて大分裂。で、名前を変えて「統一家庭連合」。

何百億・何千億とも言われているそのお金を、どこから巻き上げたかという日本人からですよ。日本人ですっからかんになっている人、いっぱいいます。

私が不思議なのは、一生懸命聖書の話をしていても「そんな要らんわ。聞けへんわ」と言う人多いのに、なんで〈音声消去〉、何千万も出すの? こっちは真っ当にやっているのに。

なぜかという、すごい伝道方法をやっているから。聖書に基づくのではなく、聖書の言葉を曲解して、日本人の恐怖心に見事にはまるような事を言っているんです。それは“先祖のたたり”。

はじめから〈音声消去〉とは名乗らない。訪問や、道でつかまったりして「あなたの家・ご家族に重い病気をした人がいませんか?」[いや、特に…。]「ひどい事故に遭った事、ありませんか?」[別に事故も…。]「リストラとかありませんか?」[あ、リストラ。]「でしょ。そうだと思います。」よう言うわ。

「悪い人じゃないでしょ。真面目な方でしょ。」[真面目な人です。]「真面目な人なのに、なぜ災難が来るんですか? 真面目に生きているのに、なぜひどい目に遭わなければならないんですか? それは、あなたの

ご先祖の罪の償いが終わってなくて、成仏していない人がいるからです。その人たちが苦しんでいるんです。子孫がしなければならない使命が1つあって、それは先祖の罪を子孫が代わりに償う事です。それが終わらないと、今生きているあなた方の上に、とんでもない病気や事件や事故があって、大変な目に遭いますよ!」

皆さん、生きてたら病気ありますよ。事故もあるでしょう。リストラもあるでしょう。問題あるでしょう。ないと言う人は安心して下さい。これからあるから。生きてて、何の問題もない。「そんな奴はおらんで。」
“こだま・ひびき”も言うてますよ。ありえへん。
「じゃあ、私の大事な家族を守るために」という事で、莫大なお金を巻き上げられるのです。

「そんなん、聖書のどこに書いてますか?」と言うと、彼らが必ず出す箇所があります。十戒の中の言葉。
出エジプト記 20:5 それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたみの神。(ここからです)わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、

父親が罪を犯してそのまま死んでしまったら、息子だけではなくて三代、四代にまで父の咎が及ぶ。
「ご先祖で罪を犯したまま死んでいる人は、後々の子孫にずっと及んで、それがあなたの家庭に…。父の咎が子孫に及ぶ、と永遠のベストセラ―聖書が言ってますよ。それを断ち切るために、あなたが生きている間に先祖の咎を償いなさい。さあ、壺を買いなさい。」
なんで壺を買う事がそうなるの? 「ええ加減にしるよ」とホンマに。

これは、そういう解釈をしてはいけないんです。父の咎は子供に問われません!
なぜそう言えるか? 聖書の別の箇所にはっきり断言しているから。

エゼキエル 18:19-20 あなたがたは「なぜ、その子は父の咎を負わなくてよいのか」と言う。
その子は、公正と義を行い、わたしのすべての掟を守り行っただから、必ず生きる。
罪を犯したたましいが死ぬのであり、子は父の咎について負い目がなく、父も子の咎について負い目がない。正しい人の義はその人の上にある、悪しき者の悪はその者の上にある。

子は父の咎について負い目がなくとは、「父親が罪を犯したからといって、その個人的な罪の責任を子供が負う事はない」と言っているんです。「親の因果が子に報いー」とかない。親の因果はない!
親の咎は親が負う。子供の咎は子供が負う。罪を犯したら、その本人が責任を負うと言っているのです。

では、**出エジプト記 20:5** 父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、はどういう事なのか?
両方併せて解釈する必要があります。

「父の咎は子に報われない」というのを踏まえて解釈するなら、こうです。
父親がその役割を果たせない、例えば不道徳・無責任・無気力・不敬虔という親である場合、その父親に育てられた子供は悪の影響を受けます。虐待されながら育った子供は、自分が父親になって、父はいかにあるべきかと思った時、知っているのは問答無用で殴って育てる男親で、父としてのイメージ・モデルがそれしかない。だから、自分の子供をどう育てていいかわからない。

つまり、父親が無責任・神に対する畏れがなく・無茶苦茶な場合、悪影響は子供、その子が大人になって育てられた子供、その子がまた大人になって育てられた子供にまで及ぶ。
罪の悪影響はそのような意味で及ぶ。

しかし神は、「自分が犯したのではない罪や親の罪の責任を子供に問うなんて事はしない!」と、ここで断言しているんです。

だけど、統一教会では「親の因果が子に報いー」。「そうなんや! 聖書に書いてあるんや!」で、何千万円。元統一教会の人が買わされた本が研究所に置いてあります。3冊セットで400万円ですよ。入れ物いれたら600万円やて。そんな貴重な本…、もうムチャクチャやんか、それ。

なんで、それを見破れないんですか? 聖書を正確に知らないからです。聖書の言葉を正確に理解してなくて、それを腑に落ちるように体得していないので、偽教師が現れて、さも聖書が言っているかのように教えられた時、だまくらかされてしまうんです。

ところが、**エペソ教会**の人たちは、**偽使徒**たちが現れた時、「それはおかしい! 間違い! それはニセモノ!」と断言し**見破る**事ができた。という事は、当時のエペソの人たちは聖書に精通している。本物を知っているから、ニセモノが出て来た時に「それ、違う!」つまり、それは称賛に値する事でした。**労苦**は知られている。

黙示録 2:2 わたし(イエス・キリスト)は、あなたの行い、あなたの労苦と忍耐を知っている。あなたが悪者たちに我慢がならず、

「教会は聖い場所だから、間違った教理を受け入れてはならない」という正義感があって、「まあまあ、なあなあ」ではなく、「駄目なもんはダメ!」「その教理を譲ったら、もう教会でなくなってしまうからダメ!」という事で退ける事ができました。

それは、ここの教会は超豪華メンバーの薫陶(くんとう)を受けていたからです。

パウロが第2回伝道旅行でエペソに立ち寄った時、自分は帰らないといけないので、**アキラとプリスカ**という聖書に通じているユダヤ人を置いて行きました。

第3回目の伝道旅行の時には、そこにじっくり腰を据えて教え、自分が帰った後は**テモテ**という片腕・弟子のような聖書に精通している人物を送りました。

エペソ教会は、スタートから何十年にもわたって非常に恵まれた教会・アジア地域の中で指導的というか、深い聖書理解があった教会。その人たちの遺産があるから、変なものが入って来た時、クンクンと何か臭うんですよ。「ん? 何か臭いぞ。」分かんねん、これ。「それはすごい。良くやった。」

もう1つは**忍耐**。エペソはアジア州の州都ではないけど、一番の人口密集地で、非常に繁栄していたお金持ちの町。そこに、大きな偶像の宮アルテミス神殿がありました。

エペソ教会は、その門前町みたいな所にあつたので、迫害とか色々あつたと思いますよ。

今思い出したのですが、私、子供が3人います。長男・次男・末っ子は女の子。長男は柔道部、次男は剣道部、末っ子はブラスバンド。長男が柔道部に入る時、1つ問題がありました。柔道場に神棚があつて、練習前に「神棚に向かって礼!」。剣道部にもある。剣道の神さんというか、鹿島大明神みたいな武道の神様。「神棚に向かって礼!」は、クリスチャンとしてできない。ドキドキしながら「僕はクリスチャンだから、できないんです…。」[いいよ～。]「あー、良かった!」でも、言うまでメチャ怖い。まあ、ちょっと何かあつたんですけど。

末っ子は小学校の林間学校で、かけっこのレクリエーション。宿泊施設から少し行った所に神社がある。

その神社を中間地点としてUターンしてゴールに戻るのですが、神社に着いたら必ずパンパンパンと3回手を叩いて、お辞儀してから帰って来るというルール。別に、神道系の小学校じゃないですよ。普通の公立小学校。先生は「神道・氏神にそれをするんや」とか思ってません。ノリでやってる。「そんなん別にかまへん。レクリエーションの一環としてパンパンパン！」

でも、クリスチャンはできない。「そんなんやってん。」「おまえ、それやったんか?」「やる訳ないでしょ!」

エペソ教会は、当時のアルテミス神殿のお膝元にあつて、しっかりと揺るぎなく、ぶれずに立つためには**忍耐**が必要でした。「あなたが迫害の中でも膝を屈さなかった事、異端に対しても撃退した事、よく分かっているよ。**わたしはあなたの労苦と忍耐をよく知っている**」とキリストが労って下さっている。これは初代教会の特徴です。

だけど、1つ叱責しなければならない事がある。

黙示録 2:3-4 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れ果てなかった。けれども、あなたには責めるべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。

エペソ教会ができたのは60年よりちょっと前です。これが書かれているのは95年か96年。エペソ教会が発足してから40年近く経っているんですね。彼らは40年経っても、教理的には正しく、聖書の学びについては精通し、**忍耐**は申し分ない。だけど、**初めの愛から離れてしまった**。第1世代が持っていた愛が、第2・第3世代に受け渡されていないという事です。

企業でも・ミッションスクールでも・教会でも・何でも、発足当時の第1世代は無知かも不器用かもしれないけど燃えている。真っ赤に。エペソ教会も、初めは燃えまくっていたけど、彼らの息子・娘の世代、その次の世代に行くに従って、初代が持っていた熱情が冷えて来た。**初めの愛から離れてしまった**。そうになると、教理的に正しくて・働き者で・疲れ知らずで・忍耐深くで・労苦を厭わない者であっても、「この事については叱責したい」とキリストは言われたのです。

なぜか？神が私たちに求めている最大のものは、働きではなくて私たちの心だから。神様はあなたを愛しています。あなたの心が欲しいんです。

例えば、こういう奥様がいらしたらどうですか？家事は非の打ち所がない。賢い・美人・料理は天下一品。テキパキして疲れ知らず。忍耐深い。靴下が右と左違っていても何も言えへん。どこから見ても、こんな完璧な女性、世の中におるんかと。でも1つだけ、ご主人には無関心。冷えている冷えてる奥さんに、「別にいいよ」のご主人は、ご主人も、もう冷えてんねん。

でもキリストは、エペソ教会とクリスチャンたちを非常に愛してるんです。自分が愛している人に、まず何を求めますか？愛し返してくれる事じゃないですか？形よりも心でしょ？形は整っているけど、**黙示録 2:4 あなたは初めの愛から離れてしまった**。

「そんな教会あるんか?」ありますよ。って偉そうにね。私も何回か経験してます。あんまり言うとアレなんですけど。ある所にお招き頂いた時、そのクリスチャンは、ほぼ皆、ギリシャ語を勉強してるんです。私がギリシャ語で知っているのはアレキサンドロスくらい。「ホ・テオス・アガペー・エスティン」(神は愛です)くらいですよ。

難解な質問して、普通の人なら「うーん。」でも「あ」言うたら、すぐ出て来る。「これ原語から見たらー」ペラペラ出て来る。私もまだ若かったから「こんな人たちが世の中におるんや!」

折り目正しく、教理は正当で、何と言うか学者集団みたいな教会。

で、私がなに言うても笑えへんねん。聖書の話の聞いている時は、わろたらあかんねん。

皆さん、失格や。初めから最後までわろてる。僕は関西人やから、笑ってもらう方がのるんです。

私がクリスチャンになって間もない新聞配達時代、すごく感謝している経験をしました。今でもそれを思い出すと泣けてくるくらい嬉しい。「神様が働いて、私にして下さったのには、こんな事もあるんですよ。こんなに愛されているんですよ」と紹介できる、自分史の中で自慢できるようなエピソード。

それをカ一杯お話しした時、長老さんが2人出て来て、1人目の人が「聖書には、自分自身の事を語るのではなく、キリスト・イエスを宣べ伝えよ、と書いてますよね。体験もいいんだけどね。」

キリスト・イエスの事を宣べ伝えてるんですよ。ちょっと、エピソードとして話しただけやん。

もう1人は、私が若かったからでしょうが、「**熱心だけで知識のないのは良くない。**」これは聖書の言葉。ものすごく、しょんぼりして帰ったのを覚えてます。道々「そんなんやったら、なんで招いてん?!」とか言いながら。

ものすごく正統的なんだけど、冷たいねん。冷ややかなのよ。

「いや、キリストに冷ややかじゃなくて、おまえに冷ややかなんや」って、そうかもしれないけど。

なんて言うかなあ…。固い体をウォームアップするためにはストレッチが必要でしょ。僕はいきなり本題に入れたいんです。ストレッチをずっとやらなあかん。それが笑う話ですよ。

それがまた裏目に出て、「いつになったら本題話すんだ?!」

「熱心だけで知識がない。」「知識ないって言われた…。」まあ、忘れられません。

そうかと思ったら、あんまり知識ない教会。だけど、メチャクチャあったかいという所もありますねん。

愛と知識、どっちも大事やと思うわ。両方必要だと思います。

でも僕はやっぱり、愛がなかったら・キリストへの愛が冷えていったら、キリストがどうでもよくなって、段々、彼がして欲しくない事もするようになるんじゃないかなと思うんです。

日本の若者に何とかしてキリストを知ってもらいたいという事で、全国に色んなミッション系の学校があります。授業に聖書の時間を入れて、宣教師のスピリッツを若者たちに口移しで与える。

僕は、あるミッションスクールに毎年招かれていました。毎年ですよ。それである時、まとまった話をしたいと、泊りがけでやる事になりました。1泊2日×2、学年を半分にして、前半をAグループ・後半をBグループ。それぞれ1泊2日。聖書の話をして2回ずつやる。

私は2回もあるから、1回目はたっぴり創造主の事を知ってほしいと思って、「皆さん、この世界をお造りになった目に見えない神様・造り主がおられるんですよ。あなたを造った。自然界を造った。つまり進化はありません。偶然できた命が、長い時間をかけて別の種類のものに変化して行った、という進化論は仮説であって、証明されてないし、聖書によればそれは真っ赤なウソです!」

それを若者たちが相手だから、笑い入れまくって。みんなワーワー。

私にしたら「会心の出来や!」と言ったらナンですけど、「今日は思う存分話せて良かったなあ。」

そしたら夜、先生方に呼び出しくらったんです。担任はじめ付き添いの先生方がズラッと構えている。ビックリしたのは開いた缶ビールがテーブルの上にあった事。全員クリスチャンやのにグイグイやる。

「高原先生、まず1杯。」「いや、私いいです、飲めへんし。」

すると、ある先生が、「今日のメッセージですが、あんな事言われたら困りますわ。私、生物の教師なんですけど、授業で言っている内容をひっくり返されたら、子供たちは迷うじゃありませんか。教育は一貫した方針で説明しないと駄目なんです。教える先生によって言う事が正反対だったり、どっちかを否定するのは、子供たちを混乱させる。もう終わった事は仕方ないから、Bグループの時は、進化論は間違いと言うのはやめて下さい。それだけ約束して下さいからいいですから。じゃ、堅苦しい話はここまで。かんぱーい!」「えっ?!」私、乾杯せえへんで。ミッションスクールやで。

今の私なら、それに触れずに、別の聖書の話をしたと思います。温厚、まるくなったからね。その時はまだ若かった。それでつい「今回のリトリートの講師、私が『させて下さい』と頼み込んで、ここに来たんでしょ。それとも、あなた方が私に頼んだので、引き受けて来たんでしょ。あなた方は人に頼んでおいて、発言を封じるんですか? それって、進化論的に見てどうなんですか?!」

嫌な言い方や。私、皮肉言わしたら止まらへんねん。悪い心の黒い高原が現れて、一旦始まると止まらない。「やめられない、止まらない、かっぱえびせん♪」わーっと。先生方皆うつむいて「ああ…。」

そしてBグループ。もうね、もっとやりました。2つの話、2つとも反進化論でやった。で、2度と呼ばれなくなったんです。それまで毎年招かれていたのがピタッと。20年経ちましたが、未だに呼ばれないという事は、多分伝説になってるんだと思います。

その学校を開校した宣教師たちが、そのやり取りを見ていたらどう思うでしょう。それは初めの行いではない。「神が造ったんじゃない」という事を生徒に教えるために造った学校ではない。だけど、そうなるんです。

黙示録 2:4 あなたは初めの愛から離れてしまった。

「放っておいたら、最後は教会としても意味なくなるよ。意味がなくなったら、教会を取り上げる。」つまり、エペソの教会は消滅すると言われているのです。

そうならないために3つ。

黙示録 2:5a だから、どこから落ちたのか思い起こし、悔い改めて初めの行いをしなさい。

人が神の前に向き直って、罪を悔い改めて、神を信じるためには3つのステップがあります。

1) **どこから落ちたか思い起こす** : それを思い出すためには、「落ちた」という自分の嫌な過去に向き合わなければならない。「失敗だったなあ。」その間違った選択をした自分自身と向き合うという、しんどいプロセスを踏まなければなりません。

嫌な事はできるだけ忘れたい。だけど「なぜあなたは、今そんな風になってしまったの?」

必ず**落ちた**理由があります。「**落ちた**ところに戻って考えてごらん。」

私が尊敬している宣教師の方が日本に何人かいらっしゃるんですけど、1人の方はもう94歳かな。青森県弘前におられて、私を息子のように可愛がってくれる。彼の息子さんと同じ年齢で。行ったら（呂律が回りにくい感じで）「ああ、高原君」って日本語ですよ。英語やったら分からへん。

私が30代で初めてそこに招かれた時、まだシャキッとしていて、家に招いてくれました。

そして「高原兄弟はコーヒーが好きだから、美味しいのを取り寄せたよ」と言って、ミルにかけて出してくれながら、「高原兄弟に是非伝えたい事がある。3つのG、3Gに気をつけて下さい。」

今 5G と言ったらファーウェイ。そういう事ではない。「G が付く 3 つのものに、是非気をつけていただきたい。」

①ガール (Girl)/女性・女の子; 「ものすごく有望で、私を救いに導いてくれた非常に能力のある人がいたんだけど、ノンクリスチャンの女の子と付き合っただけで結婚して、ピタッと集会に来なくなった。今どこにいるか分からない。ガールに気をつけて下さい。」私に言ってるんですか? 「あなたに言ってるんです。」目をじっと見ながら「気をつけて下さい」言われたらドキドキ。なんで分かったんやろ? 男やから。

②ゴールド (Gold)/金 (きん・かね); 私、お金持ってへんし、そんな誘惑とか思いませんが。「無い人には無い人なりの誘惑がある。」そうか。有ったら有ったで誘惑があり、無い人には無い人の誘惑があるんや。

③グローリー (Glory)/栄光; 「活躍する人ほど天狗になる」と。「俺がやったんや!」神に栄光を帰すのではなくて、俺!俺!俺!。「どんなに神に用いられても、傲慢になったらポイって捨てられますよ。へりくだりなさい。」

彼が今まで見て来て、どっかに行って、いなくなってしまったクリスチャンたちは、ガール・ゴールド・グローリー、この 3G のどれかで、初めの愛から離れて落ちてしまったと言うんです。

私の場合、3 つともヤバイ。気いつけなあかん。だから、ここで公表してるんですよ。私の周りにガールとゴールドとグローリー、持って来ないで下さい。持って来ないでというか、怖いで、これ。

「選択間違いで失敗した人は、それを思い出してごらん。惨めなあなたに落としているものは何ですか? 選択間違いをした決定的な瞬間があったでしょ? その時の間違っただけで自分と向き合いなさい。思い出さない。」その時に初めて「ああ、私はなんとやる事をしたのか…。」

今年、オウム真理教の幹部たち、麻原はじめ 12 名が死刑されましたね。オウム裁判、特に麻原の裁判を 1 回も欠かさずに傍聴した人たちがいます。それはライターたち。

書き手にとって、この事件は、もう異様なんです。二度と繰り返さないために、正確に描写して分析し、後世への警告にしたいと徹底的に調べている。

オウム真理教を覚えていますか? 20 世紀最大の日本国内のテロはオウム事件ですよ。

若い人は分からないかもしれませんが、信者を拉致して殺し、坂本弁護士を拉致して殺し、サリンを非合法に使う松本サリン事件を起こし、地下鉄サリン事件を起こした。

ライターの 1 人高山文彦 (たかやま ふみひこ/1958-) さんが『麻原彰晃の誕生』を新書で出しています。松本智津夫/麻原彰晃 (まつもと ちづお/あさはら しょうこう/1955-2018) は死刑判決以降、37 回連続で弁護士との接見をやめ、38 回目に突然接見室に現れた時、異様な姿になっていました。

オムツをしている。トイレに行かない。大も小も、ずっとオムツの中に垂れ流しです。そして、クチャクチャロを鳴らしたかと思ったら「ウー」と呻いてみたり。弁護士が前にいるのに、弁護士が言う事に一々返事しない。それだけでなく変な事・異常としか言えない事をやる。ある時は、オムツから自分の性器を出して、マスターベーションして射精する。「何してんねん!」みたいな事をずっとやる。

死刑判決が下ってからそういう事をした理由について、ライターたちが異口同音に言っているのは、「自分は異常になってしまったので、死刑は勘弁して下さい」と弁護士に思ってもらうための詐病(さびょう)。だから、彼の最後の言葉は「チキショー!」。最後の最後まで、悔い改めの言葉・謝罪の言葉はなかった。

なぜかという、拘置所にいる間、自分がどこから落ちたのかを思い出したんじゃない、どうやったら罰を免れるのか、という事だけを考えているから。

罰を受けずに済むためには、どんな演技をしたらいいのか・どう振る舞ったらいいのか、という策略ばかり考えて、「なぜ自分はそうってしまったのか」に向き合う事をしない。

悪い事をした人が回復するには、自分と向き合って悪を告白しない限り、再スタートは切れないのです。

黙示録 2:5a だから、どこから落ちたのか思い起こし、悔い改めて初めの行いをしなさい。

2) 悔い改める：自分と向き直った後に悔い改める。悔い改めというのは考えを変える事。

「私はあそこから落ちた。だから何だ?!」と居直るのではなく、「だから失敗してしまった。惨めだ。あの考えは間違っていた」というように考えを変える。考えを変えない限り、神の前に出ません。

今年、ある人たちが金銭強奪事件のターゲットになり、莫大なお金を強盗に次々奪い取られています。

誰が強奪されているかという暴力団。暴力団の金を強奪する奴がおる。誰や? 別の暴力団。

今、警察の締め付けが非常に厳しい。それで非合法的な反社会的な方法でお金をむしり取る事は難しい。

その中で、何とかむしり取っている金のある暴力団を、金のない暴力団が襲いかかって強奪している。

された暴力団は警察を呼ばない。そもそも、その金をどうやって手に入れたか、説明しないとイケないから。やばい金。「この金持ってても狙われるから、こんな稼業続けてたらあかん」と考えを変えるんじゃない、と、「もっと他の所から取ったらええ。」考えを変えないから、警察の介入を受ける事ができない。考えを変えなかったら救われません。救い主の所に行かない。

黙示録 2:4-5a あなたは初めの愛から離れてしまった。だから、どこから落ちたのか思い起こし、悔い改めて初めの行いをしなさい。

3) 初めの行いをする：初めの愛に基づいた行い、初めの愛を動機とする行いの事。これをするためには、考えを変える必要があります。考えを変えないで、行いだけ・見てくれだけ初めの行いをしていても、心が伴っていません。

私たちの体は、半年前に食べた物で出来上がっているそうです。半年前に何食べたか覚えてへん。でも、3食ともカップラーメンやったら、半年後、ポロポロになってますよ。半年前に食べた物が、私の細胞の一つひとつを作っている。

では、私の行動は何によって出来ているのか? 私の考えで出来てるんです。

否定的な考えの人は否定的な行いをします。「神なんかおるか!」という考えの人は「神なんかいない」という人生を生きる事でしょう。「人生は偶然だ!」という考えの人は、まさにそのような人生観で生きるんじゃないありませんか?

体は半年前に食べた物で出来ている。行いは考えで出来ている。考えが変わらないと、行いは変わらない。考えが変わったら、必然的に行いに現れるはずなんです。

「あなた方は、どこから落ちたのか思い出ささい。あれだ!と思ったら、その間違った考えを捨てなさい。そして、キリストのところに行きなさい。そうしたら、変えられた考えに基づいて、初めの行いをする事が出来るようになります」と勧めておられるように思います。

黙示録 2:5b そうせず、悔い改めないなら、わたしはあなたのところに行って、あなたの燭台をその場所から取り除く。

燭台は教会の事でしたね。今エペソに行っても、エペソ教会はありません。

エペソの町そのものが滅びてしまいました。

では、どのように対処したらいいのでしょうか？ 時間が来たので 7 節に飛びましょう。

黙示録 2:7 耳のある者は、御霊が諸教会に告げることを聞きなさい。

勝利を得る者には、わたしはいのちの木から食べることを許す。それは神のパラダイスにある。

勝利を得る者。どうする事が勝利を得るのか、ここを 2 か所から見て終えたいと思います。

I ヨハネ 5:5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

世に勝つ者（勝利する者）とはだれでしょう。

イエス（人となられた神）を神の御子（救い主）として信じる者ではありませんか。

イエスこそは、ただの人ではなく、私の罪のために、十字架にかかって死んで下さった方。墓に葬られ、3 日目に死を突き破ってよみがえった方。

この方を神として礼拝する人・イエスを神の御子と信じる者は勝利者です。

イエスを神の御子と信じる者を簡単に言うと普通のクリスチャン。

超人的な・英雄的な・飛び抜けてめちゃくちゃ目立っているんじゃなくて、普通にイエスを救い主として信じる人は皆勝利者。イエスが勝利者なので、イエスと繋がっている人は、結果として、その勝利が自分に転がって来るのです。イエスを救い主と信じるクリスチャンは勝利者。

だから、エペソ教会に向かって「勝利を得る者は報いがある」と言われました。これは励ましですね。

どんな報いか？ **黙示録 2:7** 勝利を得る者には、わたしはいのちの木から食べることを許す。それは神のパラダイスにある。

いのちの木が最初に聖書に登場するのはエデンの園で、中央に 2 本の木がありました。善悪の知識の木といのちの木。アダムとエバはいのちの木から取らずに、善悪の知識の実を取って食べてしまった。これが神様に対する反逆で、罪のルーツです。そして、彼らはエデンから追放されてしまいました。「彼らから取り上げた、そのいのちの木から食べることを許す。」

クリスチャンはどこに行くのか？ 今、エデンの園はありません。ノアの大洪水で、エデンがどこか分からない。いのちの木がどこにあるのかを見て終わります。黙示録の最後 22 章。

黙示録 22:2 都の大通りの中央を流れていた。こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があって、毎月一つの実を結んでいた。その実は諸国の民を癒やした。

これは、この世界が最終的に到達する新天新地の都、新しいエルサレムの大通りの描写です。

新天新地の新しい都エルサレムの大通りの真ん中にいのちの水の川が流れていて、その両岸にいのちの木の实がなっている。それを食べるという事は「エペソの人たち・勝利を得る者・イエスを救い主と信じるクリスチャンは、新天新地のエルサレムの中に入ります」という意味。

つまり、「今は苦しくてたまらないかもしれないけど、あなた方が最後に行く所はここです。」

僕の長男、もうええ歳ですわ。私がええ歳やから、ええ歳なんですけど。小さかった時、めちゃくちゃ怖がり。ある時ゴジラの映画を見て、もう大変。ゴジラが海底でブクブク泡出しながらじーっと…。

